埼玉県学校支援システム
ビデオ会議システム（Join Meeting)を使って「生活科」交流学習の実践

川本北小学校　（実践・報告者）　強　瀬　雪　乃

1　単元名　　生活科「あきをたのしく～はっぱのいろがかわったよ～」第１学年

2　単元の目標　　身近な自然や人とのかかわりを広げる活動

本単元は、「きせつとあそぼう」の秋編として設定したものである。児童は、身近な自然に繰り返し接することで、季節の特徴や変化に気づいていく。自然の変化を見つけるには、何度か同じ場所に行き、五感を使い様々な情報を感じ取ることが大切である。学校の周辺や学校の近くにある「学童保育室のまわり」「にし公園」「もくせい館」２年生と行った「こどもどうぶつ公園」を年間を通して主な学習活動の場とした。 秋という季節を感じて「あきをつたえよう」とする場では、クラスの友達へ、そして縦割りで一緒に遊ぶ２年生へも、そして家族や地域の人へも、自分らしく工夫した表現できる方法で伝えたりできる活動もしていきたい。これらのかかわりを更に発展させ自分の思いや願いを伝える方法が他にもあることを実感させていきたい。

3　情報機器活用の意図

＊ビデオ会議システム＊

高度情報化社会の中、未来に向って子どもの主体的・積極的な活動、体験を大切に考え楽しく活動できる学習への一つの方法と考えて、このシステムを使った授業を提案したい。様々な社会背景の中でパソコンに慣れ親しみ活用できることで活動が広がっていくと考える。生活科においても「人とのかかわり」を学習することは大切である。教室内で遠隔地の人とのふれあいができる画期的なシステムである。埼玉県内の小中学校間にもこのシステムが平成１８年度より本格的に導入されており、他校との交流ができるようになった。このシステムの特性をこのように考える。

①リアルタイムで情報交換ができる。（学校内にいながら他. 地点に配信できる）
②子どもたちの発表の場が広がる。（活動のバリエーションが広がる）
③表現する力がつく。（自分が見つけたものについて価値を見いだせる）
④新鮮な意見が聞ける。など　　ビデオ会議の長所と捉えている。

4　指導計画

＜活動計画と評価計画＞　（１８時間扱い）

活動計画	小単元の評価規準との関連	見取りの視点・評価方法		
小単元名　○ねらい ・主な活動		関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
『あきをみつけてあそぼう』 『こうていであきを さがそう』【２時間】 ○校庭や公園の様子が秋になって変化したことに気付き、秋の自然の中で楽しく遊ぶことができる。　【２時間】	アの① イの① ウの①	秋の自然に関心を持ち楽しく遊んぶ。 【行動・つぶやき】 進んで木の葉や木の実を探そうとしている。【行動】	自分なりに秋の楽み方を考えて遊んでいる。 【行動・つぶやき】 活動を振り返って楽しかったことを	春や夏の頃と比べて自然の様子が変化している事に気づいている。 【行動・つぶやき】 木の葉などを使って遊んだりできる

「こうていやまわりのまわりで、あきをさがそう」 【２時間】 『みんなであそぼう しらせよう①』 「もくせい館であきを さがそう」【３時間】 ○もくせい館へ徒歩で行き草花の変化や匂いにも気づく。 『みんなであそぼう しらせよう②』 【３時間】 『つくってあそぼう』 【６時間】 ・森林公園の秋や落ち葉などを使た遊びに関心を持ち、自分なに工夫しながら遊んだり作っりすることができる。 【行動・発言】 ○十分に楽しんだ秋の活動を様々な方法で伝える事ができる。・プロジェクターの画面に映る自分や友達の表情を見ながらもっと遠くの「あき」を知り合うことができる。	 アの① ウの③ アの① ウの③ イの②	 はじめましての方法等を考えることができる。[行動･つぶやき] 落ち葉ち葉などを進んであつめたりしている。 【行動・つぶやき】 秋を知らせるための方法等を考え、作ることができる。[行動･つぶやき] 自分らしく作品を考ることができる。 ［ 行動･つぶやき] 相手の表情や作品をしっかり見ることができる。 自分らしく作品を考ることができる。 自分の思いを表現できる作品や遊びを紹介できる。 【 行動・つぶやき】	カードにかいている。【カード】 自分が相手に伝わるように工夫して発表ができる。 [行動･発言] 学校にはない葉や見つけている。 【行動・つぶやき】 自分が見つけた秋の雰囲気が伝わるように工夫して作品や発表ができる [行動･発言] 相手の「あき」を感じることができる。楽しかったことなどの感想が表現できる。[カード･発言] 相手の「あき」を感じることができる。【行動・つぶやき】 	ことに気付いている。【行動・つぶやき】 活動などを画面か「相手」にきづきくとができる。 [つぶやき] 色のそれぞれちが実に気付いている 【つぶやき】 秋さがしの活動を振り返りながら画面から伝わる「相手の秋」に気づくことができる。[つぶやき] 相手の表情や作品楽しかったことなをしっかり見ることができる。 【カード・発言】

5　成果と課題

子どもたちの発達段階や学年に応じて一連のプロセスを含む学習活動が必要であると実感した。

子どもにとって身近で具体的な問題を解決していくような活動を想定した場合、まず子どもたちが具体的な目的を持つことから学習はスタートし具体的な目的があるからこそ、収集した情報が役立っていたか、情報手段は、活用は適切であったかが明らかになる。発信する目的があってこそ、表現や処理の工夫もある。直接的な体験と間接的な体験等、様々な経験をさせ指導過程を体系化し、メディアミックスをしていくことが重要である。ＩＣＴを活用することにより、教材の提示・資料の収集・作品発表・テレビ会議等を活用した交流等、これまで以上に多様な学習形態を導入し、各教科にの指導においても、各教科の目標の達成と情報活用能力の育成という２つの目的を同時に意識し、そのための働きかけを計画・実施し、実際に効果があったかどうかを検証していきたい。